

生活の痕跡を留めた遺跡 樋爪館懇話会定期講演会 南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡の発掘調査報告

岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター調査課 文化財専門員が講演

樋爪館懇話会主催、赤石公民館共催として、11日(日)に第29回定期講演会を開催した。今回の講演会には、県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査課の文化財専門員村田淳氏を講師としてお招きし、先に北上川築堤等に伴う発掘調査を行った南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内遺跡Ⅰ遺跡・北条館跡についての成果を講演をなされた。

以下、講演資料より一部分を抜粋して掲載する。

中世城館(15～16世紀)

1. 北条館跡

- ・どんな城か---文献史料が殆んど残されておらず不明
- ・唯一の史料---「志和郡 肥爪 平城 破却」
『南部大膳大夫分国内諸城破却共書上之事』
- ・城の構造(縄張り)---5つの曲輪を並列に配置する連郭式の平城
- ・検出遺構---普請(堀・土塁・土橋)と作事(掘立柱建物・竪穴建物・門・塀)に関連
- ・多様な出土遺物---茶の湯道具(茶壺・茶臼・茶釜) 金属生産(埴塼・羽口・鉄滓)
- ・破却の痕跡-----人為的な埋戻し、竪穴建物の焼却
- ・竪穴建物出土炭化物の年代測定結果---16世紀末(1592)頃と測定

⇒構造・破却の痕跡及び炭化物の年代から、史料にある「肥爪 平城」と考えられる。



熱のこもった村田淳氏の講演



北条館跡の平安時代末期の溝と遺物出土状況↑



北条館跡の出土土器

2. 北日詰城内Ⅰ遺跡

- ・検出遺構---鍛冶工房と考えられる竪穴建物や井戸
- ・遺跡の性格---北条館城外に位置する鍛冶を主体とする生産施設か

3. 南日詰大銀Ⅱ遺跡

- ・検出遺構---掘立柱建物と炉(焼成遺構)
- ・炉の性格---燃料残渣と考えられる炭化種子(イネ・コムギ・ヒエ等)を検出、土器製作用か
- ・遺跡の性格---北条館城外に位置する土器など焼成を行う生産施設か

《《《7月～8月行事予定のお知らせ》》》

7月19日 (水曜日)	第141回 月例発表会	時間：午後7時～9時 場所：赤石公民館 和室 テーマ講談「須川長之助とマキシモビッチ博士」 発表者 大沢斗志子 テーマ「北方の民 1」(5月の続きですので、 発表者 金濱興一 その資料を持参のこと)
8月16日 (水曜日)	第142回 月例発表会	時間：午後7時～9時 場所：赤石公民館 和室 テーマ「陸奥話記(むつわき)を読む」 発表者 宇部真澄 テーマ「日本の仏教⑱ 臨濟宗(3) ↓ 発表者 宮良男 京都五山・盛岡五山」

五郎沼薬師神社 境内の立ち木整備

五郎沼薬師神社は「平泉」にゆかりある比爪館の大莊嚴寺の鎮守社（薬師堂）として、比爪太郎俊衡が国家安穩・武運長久を祈願し建立されたと伝えられている。以来、8百年の間、時の氏子、崇敬者および関係者の御加護により現在に至っている。

境内には、現在、立ち木が40本近くあり、このうち杉は数百年を経た大木もあり、そのうち老木化となった1本が4月13日の強風によって倒木に合い、隣接民家に被害を及ぼした。このことを踏まえ、神社では専門家による境内の立ち木の状況を確認調査し、倒木の恐れある杉等10本を処理した。

この整備に要する費用約100万円については、氏子、崇敬者、近隣企業、神社関係者の寄附金等をもって賄われたとのこと。



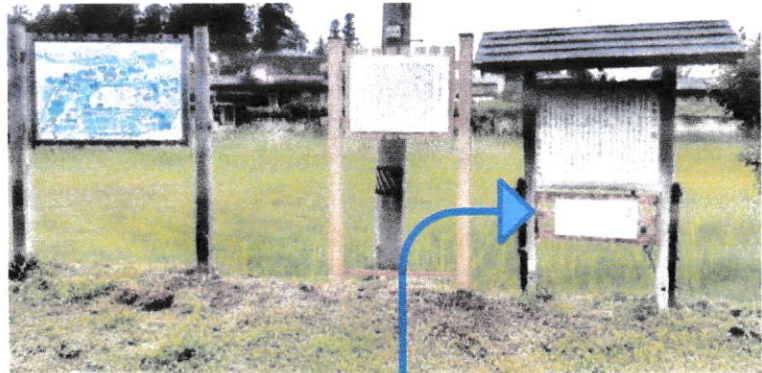
参道両側の杉を一本づつ残し切り詰めて風格を表す 倒木の恐れある立ち木を処理し運び出しをする

五郎沼の環境整備へ 周辺企業・事業所が寄付

史跡五郎沼愛護会では、五郎沼の環境整備等に伴う資金を周辺企業・事業所より寄付を募り、このたび、その芳名板を五郎沼古代ハス池の傍に掲げた。

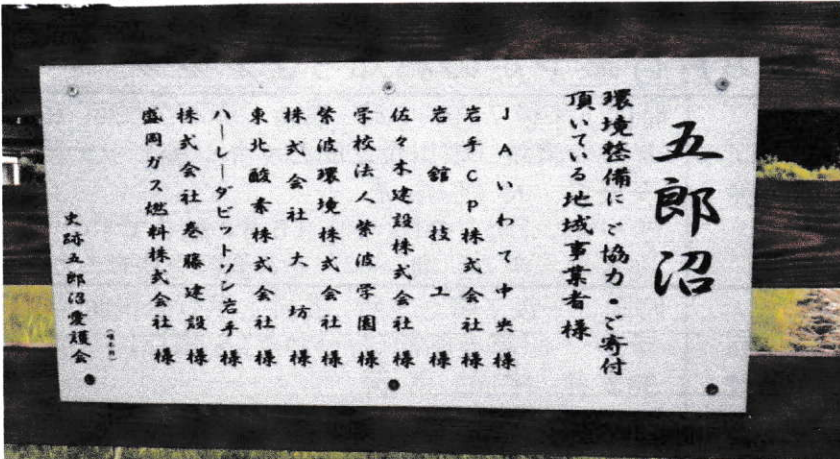
史跡五郎沼愛護会は、五郎沼堤体の草刈(年3回)と桜木の管理(年2回)そして古代ハス池整備やハス保護を行っている。これに要する経費は、箱清水行政区86戸からの会費と紫波町よりの草刈業務委託料で賄ってきたが、各作業に対する諸費や案内施設の老朽化により修繕費が増大してきた。

これを踏まえ、五郎沼周辺の事業者より寄付を募り、11者から協力を頂いた。この資金により町民等の憩いの場所である五郎沼の環境整備をはかる。



五郎沼環境整備にご協力・ご寄付を頂いている地域事業者様

(順不動)



- JAいわて中央
- 岩手CP株式会社
- 岩館技工
- 佐々木建設株式会社
- 学校法人紫波学園
- 紫波環境株式会社
- 株式会社大坊
- 東北酸素株式会社
- ハーレーダビットソン岩手
- 株式会社巻藤建設
- 盛岡ガス燃料株式会社